

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2894000203		
法人名	株式会社JAWA		
事業所名	街かどケアホームそよか		
所在地	姫路市大津区勘兵衛町1丁目26番		
自己評価作成日	平成26年5月14日	評価結果市町村受理日	2014年 9月 11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.java-jp.com/
----------	---------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	平成26年6月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ノーマライゼーションの考え方にに基づき、認知症があっても、当たり前のようにその方がその方らしく過ごす日常生活のあり方に日々真剣に取り組んでいる。施設や職員の都合のタイムスケジュールとならないよう、またご利用者が出来る事・したい事を職員が奪わないように、その時その時のご本人の気持ちやペースを大切にしている。また、ホスピタリティの精神のもと、心からのおもてなしの気持ちで声に出されない真のニーズにもお応えできるように努めています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年、訪問看護と連携して医療体制を充実させた。また、近所との交流が増えてきて、近所の方が利用者、職員と一緒に花壇を作り花を育てるなど、事業所が利用者、近隣住民、職員が集う場所となってきた。介護面においては気を配りながら利用者の行動を制限せず、それぞれのペースで生活することを実践している。「どうしましょうか」と聞くせをつけ、利用者が「やってみようか」という気にさせる環境作りに努めている。職員は利用者にとってのホスピタリティとは何なのかを利用者の立場に立って考えて、接することに努め、利用者が安心して、身をまかせてくれる介護方法を常に表情や感触等でつかんでいる。「好きなビールが飲めるかな」、「きれいな風呂に入れてくれるかな」等々、自分が入ってもいいと思う事業所を常に目指して努力している。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	アーマライゼーションの考え方に基づいた法人理念を大切にし、理念研修に力をいれている。『自分がされて嫌なことは決して他人にしない』という理念には毎日立ち返り、日常のケアの中で実践できるよう心掛けている。	新人研修時に実際の失敗例、成功例をあげるなどして、理念の意味をわかりやすく説明している。職員間ではお互いに理念について話し合うことを推進し、チェック機能を果たすことによって、実践につなげるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	提携の農場から届く北海道産とうもろこしを近隣におすそ分けしたり、地域の祭りや溝掃除など積極的に参加している。また昨年は納涼祭を開催し地域の方も多く参加いただいた。	地域の溝掃除の際、溝蓋を上げる手伝いをしたことをきっかけに、近隣の住民が積極的に事業所の花壇の手入れをしてくれるようになり、交流が広がっている。散歩中に声をかけてくれたり、地域の行事にも積極的に参加するなど、利用者、職員共に良いお付き合いをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	トライアルウィークで地域の中学生の体験学習やその他実習生の受入れも積極的にしている。またAEDの設置を活かし、『ひめじ救命ステーション』として登録している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではブログで日常生活を紹介し、好評を頂いている。昨年は初めての納涼祭開催を通じ厳しいご意見をいただくこともあったが、それ以上にたくさんのご協力も頂戴した。	家族、利用者、自治会長、民生委員、地域包括等が出席している。認知症患者の電車事故の賠償についてなど、社会的事例を議題に上げて、意見交換している。また、第三者評価の結果を報告し、災害時の地域との協力体制について、話し合うなど、有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	忌憚のない意見交換を交わしながら、着実に構築していつている。	市担当者とはグループホーム連絡協議会を通じての意見交換となっている。届出書は直接持参するなどして、協力関係を築くよう努めている。地域包括とは、ベッドの空き状況を含めて、運営推進会議への出席もあり、情報交換をしながらいい関係を築きつつある。	市担当者には運営推進会議の議事録を提出したり、行事の案内をするなどして、協力関係を築く努力を継続して行っていただきたい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠をしていないことを家賃とし、あらゆる身体拘束をしていない。場合によってはご家族から安全を得るため拘束する打診があることもあるが、ご本人の立場からご説明することで納得と理解をしてもらっている。	身体拘束になること、ならないことについて、学んだ。転倒のリスクがある利用者の家族からベッド柵設置の要望があったが、精神的弊害について説明し、事業所の取り組み方針の理解を得、納得してもらった。身体拘束をしない取り組みを介護計画に載せ、拘束はしないケアに取り組んでいる。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法については新人研修で学び、また年に一度研修を実施。また、虐待のニュースがあるたび考える機会を設け、虐待はごく身近にあることを意識している。	管理者は虐待の芽は常に心の中にあることを話し、日常の中の小さなことを放置しないよう促している。職員のストレスについては、職員同士の信頼関係を大事にすること、利用者への関わり方を変えることによって、ストレスが喜びに変わることを指導している。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用する利用者也複数おられるため関係者と話し合う機会も多い。また、外部研修も積極的に参加している。	成年後見制度に関しては、5人利用している。成年後見人の司法書士が運営推進会議に出席しており、身近に学ぶことができる。必要と思われる人に勧めて、活用したこともある。日常生活自立支援事業については管理者が理解している。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時などでは十分な時間をとり出来る限りわかりやすく説明をしている。また場面に応じて説明をしながら、理解をして頂けるよう努めている。	利用料金、退去理由や看取りはする方針であるが、場合によってはできないこともあること等をしていねいに説明し、納得の上、契約している。改定等については文書を配布し、同意書ももらっている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を明確に謳っている。また苦情は小さなうちにご意見としていただけるよう日々のコミュニケーションに注意している。	イベントの後に家族会を開催し、ソフトな空気の中で意見が出やすい工夫をしている。夏祭りに関して、「もっと家族の参加の場を増やしてほしい」との意見を来年に活かしたいと考えている。面会時にも必ず声かけをするようにしている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案はできる限り実施できるよう後押しをしている。	管理者から質問を投げかけて、職員の意見を引き出すようにしている。また、職員の意見を否定しないこと、提案されたことはできる限り実行することを心がけている。利用者の誕生日に生まれた日の新聞を贈ることやシャワーチェア等の購入等、実現した事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の人事担当役員は上から目線ではなく現場の意見をよく汲み取りアドバイスをしている。責任範囲を明確にすることで責任をもって仕事に取り組めるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者の力量を把握し、管理者は職員の力量を把握している。責任や役割を与えながらも、大きな失敗をすることなく業務が進行できるよう適切にフォローするよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は姫路市グループホーム連絡会で役員をつとめた際の成果の一つとして、市内の事業者が空室や緊急入居希望者の情報を共有するシステムを作ることに貢献できた。		

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居して間もない時期には利用者もご家族も不安がつきまとうことを考慮し、無理強いない範囲内で色々な声かけやご提案をするように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居直後は毎日近況報告を実施し、ご家族の不安の把握とその解消、そして早期の信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談の時点で、その時に誰が何に困っているのかを広い視野で捉え、入居するしないに関わらずソーシャルワーカーとして専門的な立場で相談に乗るよう心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者が出来る事・やってみようと思う気持ちを奪わないよう、ご利用者お一人おひとりのペースやタイミングでして頂けるよう支援している。その中で得意な事や関心のあることを活かせるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には誕生日やイベントなどには参加してもらい、役割を持ってもらうことで、家族も本人の支援者の一人として認識していただけるよう配慮している。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係が継続できるよう、病院や散髪屋、お寺やお墓参り等、馴染みの場所に行けるよう実践している。本人の友人が訪ねて来られた時は特に、また来て頂けるように工夫している。	船乗りだった人と港へ海を見に出かけたり、家族が来にくい人には友人関係をつないだりするなどの支援をしている。友人が定期的に訪ねてきたり、家族と一緒に食事に出かける人もいる。誕生日のお祝いに馴染みのお好み焼きやに行くなど、馴染みの関係継続支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係を把握して孤立したり人間関係がこじれないようさりげなく支援している。例えば食事の場所やタイミングも配慮し、人間関係をみながらテーブル配置を変えたりしている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時には、今後もいつでも相談に乗れ、出来る限りの協力ができることを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活に関する意向(真のニーズ)の把握に努め、介護者の価値観や都合を押し付けるのではなく、ご利用者の立場で考えられるようにしている。	日常の関わりの中で、声のトーン、表情、身体力の入れ具合などによって把握している。一つ一つの行動の意味を制止せず、共に行動してみても観察して考えている。把握したことを職員全員で話し合い、実行している。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントはもちろん、日常の何気ない会話からもこれまでの暮らしを把握できるように全職員で取り組んでいる。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録を毎日記入し、お一人おひとりの情報を職員全体で共有している。介護職員は業務に入る前、必ず業務日誌・ケース記録・連絡ノートを確認している。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリング会議を実施し、介護計画が現状に即しているか、新たなニーズが出ているかを話し合っている。また会議では職員一人ひとりが意見を発言しやすい雰囲気作りを行い、色んな視点から考えられるようにしている。	毎月モニタリングを実施している。普段の会話の中で把握した利用者、家族の意見、訪問看護の意見を取り入れて介護計画を作成している。アセスメントの内容も見直している。介助方法を写真で示したり、わかりやすい言葉で表現し、サービスにつなげやすい工夫をしている。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきをケース記録や連絡ノートに記入し、職員間の情報交換・共有をしている。また会議で実践方法を検討し、その評価も行っている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者のその時のニーズに対して柔軟に対応することが最も大切な事として職員が共通認識出来るよう努めている。ご要望に応えることが難しいことでも単に「出来ない」のではなく、「出来ること」を提案するようにしている。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設内サービスだけがご利用者生活の全てではないことを新人研修でも伝えている。また管理者やケアマネを中心に、ご利用者のニーズに地域資源を結び付けれるよう努めている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の馴染みのかかりつけ医にかかっている方もおられる。当事業所の協力医は月に一度訪問診療に入っただいており、何か相談事があれば電話で気軽に相談に応じていただける。	多数は、これまでのかかりつけ医を継続し、ほぼ往診医となっている。受診については職員が付き添うが、専門医等の場合は、家族が同行することもある。希望により、歯科往診の利用も可能である。毎月の協力医の往診により、緊急時でも安心できる体制となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に週2回訪問していただき、日常の健康管理をしていただいている。看護師との情報の共有という課題も一歩ずつ進展しつつある。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医師やソーシャルワーカーとも話しあい、早期退院のため退院時期の目標を明確にしている。それにより安心して治療にのぞめ、ご家族にも安心頂いている。	入院の場合は、その時点で退院の目的を設定し、利用者が治療に専念できる環境を整えることを重視している。早期退院後の事業所での生活リハビリについても、利用者自ら率先してできるよう配慮している。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアにあたり出来る限り早い段階でご利用者とご家族の意向を伺い、出来る事と出来ない事を丁寧に説明し、またかかりつけ医や看護師と連携を図りながらチームとして出来る方法を提案している。	現在、希望している利用者がある。本人、家族の意向を最優先に、これまでの生活の継続をベースに清潔保持、安心できる環境を重視している。家族の協力の基、病院ではできない職員、家族が一体となったターミナルケアを目指している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は救命講習を受講し、急変時に冷静に対応が出来るよう準備している。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施し非常時の対応が不安の無いよう準備している。	定期的訓練(夜間想定含む)を、消防署立ち合いにより、実施している。毎回、火元を想定し、利用者も一緒に避難経路の確認等、現状に即した実践を行っている。今後は、運営推進会議で、折にふれ近隣の協力を働きかけていきたいと考えている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者を人生の先輩として尊敬の念を忘れないよう、まず言葉遣いを直すことで気持ちを直すように努めている。また職員は容易にご利用者のプライバシーを侵す可能性があることを自覚することで、プライバシー保護の意識を徹底している。	高齢者を敬う気持ちを重視し、姿勢、言葉かけ等の周知徹底を図っている。利用者の気持ちや意思を尊重するためにも、利用者自らが選択しやすい言葉かけに努めている。利用者一人ひとりの理解を深め、特性に応じた関わりができるよう普段の観察にも注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活のあらゆる場面で、利用者の自己決定する機会を職員が奪わないように注意しケアに当たっている。またご利用者に希望を言って頂きやすい雰囲気作りのため、職員は忙しそうに見えないように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の価値観や都合、タイムスケジュールを押し付けることなく、一人ひとりのペースを常に意識し、日々の生活を共に過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のおしゃれを支援することも大切な事であると研修で学んでいる。そのためのお手伝いも日々実践している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の際はご利用者にも出来る範囲内でやりたいことを一緒にしている。またご利用者の希望するメニューを提供する機会も週に1度確保し実施している。	食事は利用者にとっての最後まで楽しめる機会と捉え、重視している。利用者自らが、キッチンに入り調理や下ごしらえに携われるよう、職員は環境を整え、声かけの工夫に努めている。職員も一緒に、おいしい温かい食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事の摂取量を把握し、記録している。その上で、ご本人のお好みや習慣を日々情報を蓄積させながら、美味しいものを美味しく食べていただく工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に合わせた口腔ケアに努めている。なるべくご利用者にできることはしていただくことは基本にしている。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンや失禁の種類を考えながら、出来る限り自立に向けた支援に取り組んでいる。オムツ類代もご利用者の負担となりすぎないように、適切な物を選ぶよう心がけている。	一人ひとりの排泄習慣や、体調の変化にも注意し、さりげないその人に応じた声かけを行っている。できるだけ失禁を無くすよう、様子観察には注意し、早めの誘導を心がけている。昨年より、オムツ等の使用の無駄を極力なくす取り組みに努め、実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄や便秘の把握についてはご利用者のプライバシーの問題と密接に関係するため、配慮が必要である。その上で可能な限り把握に努め、薬の調整だけでなく食物繊維食品や乳酸菌食品を多く摂ってもらう等様々な方法を提案している。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	大浴は職員の都合で決めることなく、一人ひとりの希望や状態にあった方法で支援することを心がけている。好みの入浴のタイミングや好みのお湯の温度も把握し、単なる清潔保持だけではなく入浴を楽しむことにも心掛けています。	普段は一人ひとり好きな時間に、好きなペースで入浴してもらっている。好みの湯加減にも配慮し、くつろげ、職員との会話を楽しむ機会ともなっている。週1回は大浴場の日を設けるなど気分を変えて楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床や就寝のタイミングなどは過去の生活歴や習慣も把握し、その日その日の要望や状況に合わせて柔軟に対応している。また安楽な姿勢保持(ポジショニング)の技術向上にも努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬間違いや漏れがない様、防止策を実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の楽しみのためにレクリエーションや大小様々なイベントを企画している。子供っぽい内容にならないよう大人仕様にするよう心掛けています。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出プランとしてドライブや買い物に行くことも多く、またその日の希望で外出することもある。また、普段行けない場所へも特別な時には行けるよう本人の希望の把握とその支援も努めている。	日常的な買物や散歩は、定期的、又は個々に応じて行っている。毎月のアクションプランとして、事前に計画して、少し遠出の外出も行っている。お誕生日等特別な日の楽しみとして、その人だけの外出を企画することもある。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者がお金を持つことも大切な事であると認識しつつ、預かり金を金庫でお預かりしていることを本人にその都度伝え安心してもらえるよう支援している。また、移動パン屋の訪問により、好きなものを買うことの楽しみの支援もしている。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がしたいとのご希望があった場合は、基本的に電話していただく支援をする一方、ご家族の状況も勘案し良い家族関係の継続にも配慮している。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある雰囲気作りに配慮しながら、心地の良い音楽や温度湿度も気を遣っている。「危険だから」という理由でリビングから物を無くし過ぎないように注意している。家庭的で生活しやすい環境を作るように努めている。	広々としたリビングに、複数の食卓テーブル、ソファコーナーが、ゆったり配置され、利用者は思い思いに気に入った場所でくつろいでいる。オープンキッチンには、自由に行き来でき、作業しやすいスペースが確保されている。窓が大きく明るく、開放的である。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士が心地よく、もしくは気が合わない利用者同士が苦痛を感じないように、テーブルの配置や逃げ場にも配慮している。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや使いやすいものを持って来ていただけるよう、呼びかけている。また大切なプライベート空間であることの配慮により、居室に入らせていただく場合はノックとお声かけをしてから靴を脱いで入室するマナーを徹底している。	基本は、これまで使っていた家具や日用品を置いてもらうよう働きかけている。椅子やテーブル、整理ダンス等、使いこまれた調度品が置かれ、好みの飾り物に囲まれている。これまでのその人の暮らしぶりがうかがえる。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援と安全管理という二つの視角を持って、行動の抑制をすることなくリスクを減らすという工夫をし続けている。また出来ることを奪わないよう、一度に複数の職員がキッチンに立ちすぎないようにも注意している。		